

SSKP 船橋障害者自立生活センター

2015年1月

うえいぶニュース

76

〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F TEL：047-432-4554 / FAX：047-432-4565
URL：http://www.cil-funabashi.org/ E-Mail：cil-funabashi@cil-funabashi.org

巻頭言

あけましておめでとうございます。

2015年が明けました。皆さんもそれぞれに新しい計画や希望を胸に秘めてお過ごしのことと思います。

私たちの自立生活センターも気持ちを新たにして、様々な課題に取り組んでいきたいと考えています。キーワードの一つは「運動」だと思います。作業所の運営や一昨年からはじめた相談支援事業。それら自体は、その名の通り「事業」なのですが、その過程で見つけた問題を広く社会に提起する必要性を感じています。種類も程度も異なる障害を持つ人たちの生活の維持・向上を願って相談に乗ったり、“サービス利用計画”を考えたりするわけですが、家族に依存していたり、制度の壁に阻まれて思うような生活が送れないなどの事例が散見されます。

折しも、今年には障害者差別解消法に基づく基本方針が策定され、解消法自体は2016年4月から施行されます。本来一番の味方であり支援者であるはずの「家族」が差別（という意識はなくても）する側になることは十分考えられます。

家族だけでなく、いろいろな場面で当事者の意向が損なわれることがないように注意しながら問題提起を続けていきたいと思っています。

今年も自立生活センターの活動にご支援とご協力をお願い致します。

WAVE ホットページ

☺ 市内ゆうゆう散歩

昨年9月10日、街歩き～市内散策を行いました。

船橋観光協会認証街歩きネットワークの方のご協力で、大神宮や巖島神社などの船橋駅周辺の寺社の案内をしていただきました。



当日は天気が良く、暑い中での散策となりましたが、総勢11名で元気に街歩きを楽しみました。船橋駅周辺には、こんなにも寺社があるのかと驚きながら、船橋の歴史を感じつつ、お参りをしてきました。

途中、今や人気絶頂の『ふなっしー』との思いがけない出会い。地元とはいえ街中で出会うのは稀なこと。ここは一緒に記念撮影！とはいかなかったものの、良い思い出となりました。



案内人のお二人からいろいろな説明を受けることができ、身近な場所でありながら知らないことが多く、新発見の街歩きとなりました。

その後、昼食は市内の名店、東魁楼で中華料理を美味しくいただきました。



次回は、さらに楽しい企画を考えてまいります。

市内ゆうゆう散歩 ちい散歩
楽しかったなっしー

梨汁ブシャー!



☆イトウ君の漢字コーナー

～みんな読めるかな？～

ヒント・全部 野菜、果物の名前だよ。

- Q1. 人参 Q2. 葱 Q3. 葡萄 Q4. 赤茄子 Q5. 甜瓜
Q6. 甘蕉 Q7. 甘藷 Q8. 甘藍 Q9. 鳳梨 Q10. 辣蕪

（正解は最終ページを見てね。）



「2014年8月22日」

小西由起

私が作業所に通いはじめてしばらく経った8月22日のことでした。船橋福祉サービス公社の帰り、市役所に用事がある途中、千葉街道のセブンイレブンがある交差点の前に立っていました。信号の青を確認して歩き出したのですが、トラックにぶつかり、私は倒れてしまいました。意識不明になり、救急車で船橋の病院に運ばれました。病院に着き、少し目がさめましたが、ぼんやりとしていました。そして頭部の急性硬膜下血腫の緊急手術を受けました。4時間かかりましたが、手術は無事に終わりました。脳のCT検査を受けて、またすぐ手術しました。右の頭部を少し切りました。8月23日の夕方、私は目が覚めました。

船橋福祉公社のTさんが来てくれました。私は恥ずかしかった。Tさんに「危ないですよ。」と言われました。私は頭の中がよくわからなくなりました。福岡県久留米市の親戚が来てくれました。親戚に「小西さん大変ですね。顔が腫れていますね。」と言われました。私はあまり話しませんでした。恥ずかしかったのです。私は重症病棟に入りました。男女一緒でした。重症な方が多くいました。

私は歩くことができませんでした。足がぶらぶらとしていたので車椅子を使用していました。車椅子と自分を固定するため、ひもでしばられました。とても苦しかった。トイレへ行く時は、便座に座るのが痛いので、大声で叫びました。看護師から「小西さんは頭おかしいですね。バカですね。」と言われました。私は看護師に「マナー良くないですね。失礼ですね。差別やめなさい。」と言いました。

私は毎日リハビリを頑張りました。足を動かす練習や自転車を練習しました。足が痛くてたまりませんでした。とても辛いリハビリでした。

2ヶ月リハビリをして、私は早く退院したいと医者に申し出ました。先生が「11月4日の退院、OKです。」と言ってくれました。私はとても嬉しかった。

私にとって8月22日は人生最大の危機を乗り越える体験をしたスタートの日でした。

代表のぼやき

～自転車コワイ～



寒い毎日が続きますが、相変わらず電動車いすで走り回っています。

このページで何度も書いていますが、この街の道路事情はあまり良くなる気配がありません。狭い上に細かい凸凹があって、快適に走れる道はあまりありません。特に困るのは自転車との関係です。ただでさえ狭い歩道を自転車がかんりのスピードで走ってくると、距離が近い分だけ車以上の恐怖を感じます。

しばらく前に自転車走行のマナー向上を呼び掛けるポスターを見ました。私も詳しくは知らなかったのですが、道路交通法上は自転車は車道走行が原則であり、歩道を走るのは条件が整っている場合に限られるそうです。そんな決まりを知ってか知らずか、歩道を走る自転車が圧倒的に多い印象です。先日も自宅近くの幅1メートルほどの狭い歩道を走っているときに、後ろから来た自転車に警告のベルを鳴らされました。言うまでもなく車いすは歩行者として扱われ、歩道では優先的に通れる決まりになっています。

が、実態は自転車の方が大きい顔で通っているような気がしてなりません。歩道だけでなく、車道もあまり整備されているとは言えない状況の中で、自転車に乗っている人が車を避けるために歩道を通りたい気持ちは分からなくはないのですが、歩いている人や車いすの人間に、恐怖を感じさせるようでは手軽で便利な乗り物も台無しになってしまいます。

根本的には、自動車と自転車と歩行者とがそれぞれ専用のレーンを通るようにすればある程度は問題が解決するのですが、この街の現状を見るとそれは夢物語に思えます。何とか少しでも安心して車いすで通れる道が実現することを祈りたいと思います。

蛇足ですが、お世辞にも広いとは言えない歩道の半分を駐輪場に使うのも同じ理由で危険だと思いますが・・・。



第3回ふなばし福祉祭りに参加して！！

根岸皓子



昨年10月23日（金）24日（土）の2日間にわたり「ふなばし福祉祭り」が盛大に開催されました。今回はイオンモール1階～3階のコーナーが設けられたこととイベントだけで終わらせることなく、船橋市内の「福祉」「介護」「医療」関係者の他に、本業ではないが「ちょっと福祉に関係のある」広域事業

所の方々とネットワークを広げるという意味で実行委員の方々が呼びかけ、70以上の団体の方々から何らかの形で参加したいと申し出があったようで、とてもうれしく思いました。



今回は、特に認知症カフェは人気でした。老人ホーム入居者の方々やご家族、お友達を誘いあい、大勢集まり活気づいていました。作業所も参加するにあたり、手作り製品の人形ホルダー、ティッシュボックスケースの飾り、「クリスマスコースター」等利用者の皆さんが出来ることから型紙作りを始め、それぞれの分担を決め、会話を楽しみながら4、5ヶ月かけて作り上げました。他に下駄ブローチ、マフラー、三陸わかめ、船橋のりなどを販売することになりました。

当日は商品を並べたり、開店の準備をしたり。2回目ともなると要領よく並べることもでき、お客様が製品を見て「可愛いですネ」「どんな色がいいかしら」と迷っていると「これはどうですか？」などお客様とのやりとりをする姿もみられ対応しておりました。また他のコーナーに行ってみたり、営業に行っ



たり、昨年ではみられない行動も見る事ができました。東京からいらしたという男性はこのコーナーの写真を撮らせてくださいと言ってきたり、センターを退職したスタッフの方々もお手伝いに来て利用者の方も大喜びでした。「来年はいつやるの」「また参加したいね」等やる気満々でした。手作り製品を毎日少しずつでもコツコツと作りあげ喜んで使っ

ていただけるように販路先が見つかれば良いと願っております。2日間おつかれ様でした。



私の思うこと

小林健一

障がい者の自立とは、一体何だろうと考えることが度々あります。自分の意見をしっかり言い、自己選択、自己決定、自己責任を取るとのことだと思えます。それはとりもなおさず自立生活センターが当初から取り組んできた、当事者によるエンパワーメントや当事者性が大事だと思います。現実の世界では不合理なことが多々あります。先日、国際城西大学に行く機会があり、最寄りの駅を利用することにしました。初めて利用する駅なのでJR千葉駅に連絡をしました。千葉駅では、車いすでは利用できない駅がいくつかあり、乗降ができないとマニュアルにあるそうです。東金駅か成東駅で降りて一駅だから歩いたらどうですかと言われました。今まで乗降できない駅が身近にあったことを知りショックでした。バリアフリーだ、ユニバーサルデザインだと叫んでいても行き届いていないところがまだまだ沢山あります。障害者の暮らしにくさをもっともっと訴えていく必要があると感じました。住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられる。当事者が当事者のために当事者のことを言い行う自立生活センターの実践がこれからますます重要になってくると痛感しているところです。2014年も当センター主催の研修を通して色々な人に会い、刺激を受けることができました。船橋障害者自立生活センターと社会が手に手を取り合いながら、必要とされる団体として、飛躍と躍進の年にしていきたいと勝手に思っております。自立生活センターは永久に不滅です。楽しくいきましょう。

☆☆

初めまして

鈴木真由美

初めまして。2014年8月より「WAVE ふなばし(相談支援事業部門)」でピアスタッフとして勤務しております、鈴木真由美と申します。昨年夏のピア・カウンセリング集中講座で職員の方にお声を掛けて頂きました。主な役割は杉井代表のアシストです。福祉の仕事は初めてで少々緊張しております。

自分は精神の障害と軽度の難聴があります。こちらのセンターは障害への理解が深く、また無理のないペースで仕事をさせて頂いているので、とても働きやすいです。

仕事は大変やりがいのあるものばかりです。代表のアシストとして、国保連への請求業務・PCでの文書入力・書類のファイリング・etc…この4ヶ月半の間に沢山の技能を身に付けさせて頂きました。

好きなことはドライブ、アウトドア、パソコン、青空・星空を眺める、日曜大工、食べること、寝ることです。女子力ゼロで男子力やや高め、料理より釘打ちが得意な変なヤツです(笑)。

これからも安定した体調を維持しながら、仕事に取り組んでいきたいと思えます。皆様、よろしくお願ひ致します。



老いのたわごと その6

ダビデの星（その2）

宮尾 修

風に転がされて離れたり集まったりしながら、カラカラと枯葉が鳴っている。季節はもう真冬だ。「寒いけれど、日本は平和だね」とAさんが言った。

「ガザは大変なんだろうなあ」

私が尋ねると彼は言った。

「大変なんてもんじゃないよ。毎日人が死んでるんだ」

「殺されてかね？」

「決まってるだろ。いつバズーカが撃ち込まれるか、空爆があるか分からないんだ。日本のような日常などどこにもないよ」

Aさんは戦争状態だったガザ地区の経験を思い出すのか、顔をしかめてそう言った。

Aさんほどではないが、ガザに入って3日間滞在した経験を持つ私にも、銃弾が激しく飛び交ったであろうその時の状況は、容易に想像することができた。私が現地を訪ねたのは6月頃であったが、チャーターしたバスで現地の検問所に行くと、ライフル銃を手にしたイスラエルの兵士が停車を命じ、全員の身体検査を始めた。検査が終わるとバスからの降車を命じ、みんながそれに従ってバスを降りると、もう一か所手前に設置してある検問所に向かって前進を指示する。車いすに乗っていた私は、仲間の人にそれを押されるだけであったが、検問所につくとそこにいた女性兵士に上半身をさぐられた。

ガザはパレスチナの中でも大きな町である。ガイドは現地の青年であったが、彼はバスに乗ってくると「自分はパレスチナ兵士の一人である」とハッキリ名乗り、ガザは「戦争状態の只中にある」という意味のことを言った。

それから2時間くらいかけてガザの町の中を案内してくれたのだが、彼の腰にはかなり大型の拳銃が下がっていた。当時の状況はイスラエル軍の空爆や地上部隊の侵攻が時々あって、そのたびにガザだけに限らずパレスチナ側の町は様々に破壊されていた。私の参加したツアーは、そうした町や集落をめぐる励ましと連帯のメッセージを送っていたのだが、ガザでは空爆で校舎が跡形もなく焼け落ちている学校を見せられた記憶がある。

「しかしパレスチナ側も結構やり返しているんだよね」

当時のことを思い出して私が言うと、Aさんはやつれた頬を指でギュウギュウこすりながら、うんうんと首を縦に振った。「そうなんだよな。ハマスがついてるからね、結構ひどいこともしているんだよね」

ハマスとはイスラム原理主義を指導理念にしている現地の組織だが、私が行った当時はこれはまだなかった。しかしいわゆる自爆攻撃なるものが盛んに行われて、賛否両論が内でも外でも渦を巻いていた。ツアーは20数人の集団であったが、この20数人の中でも両論あって、ツアーのまとまりを危なくしたのを覚えている。そのことを話すとAさんは、「今じゃ“殺せ殺せ”だけで、お互いが相手の抹殺しか考えてないんじゃないかな」とうめいた。

・・・だがそれにしても、一体いつ、どのようにしてAさんはガザなどまで行ったのか。尋ねようとする、Aさんは不意に起き上がり、よろよろと出て行った。なんと車が外に待っている。黒い車だった。

以下次号

WAVE のうごき

9月

10日（水） フェイス相談日

10月

2日（木） 計画策定委員会

8日（水） フェイス相談日

17日（金） 第3回 地域移行・
福祉サービス部会

28日（火） 第4回 地域移行・
福祉サービス部会

11月

6日（木） 計画策定委員会

6日（木） 自立支援協議会

12日（水） フェイス相談日

12月

3日（水） ピアサポG勉強会

10日（水） フェイス相談日

17日（水） FAS-net 例会

会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただけていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、正会員が3,000円、賛助会員が5,000円、団体が10,000円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパなどを送っていただく際に、便利のように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記

昨2014年は、セクハラ議員に号泣議員、ゴーストライター事件、STAP細胞問題…等々、いろいろなことがありました。中でもインパクトが大きかったのが号泣議員。あれはいけません。見ているほうは落語のようにおもしろおかしく笑って見ているもよかったのですが、この議員がやったことはそれでは済みません。税金の無駄遣いなので。それこそ笑い事では済まされません。そんな議員は、ダメよ～、ダメダメッ！

そこで今年2015年はどうしたらいいのか、ちょっと考えてみました、無い知恵を絞って。昨2014年は号泣議員でしたが今年はそれに対抗して爆笑議員なんてのはどうでしょう？ 会見の間中、号泣の代わりにずっと爆笑を差し挟むの、時にはテーブル叩いたり、時には「耳がでっかくなっちゃった」なんてやりながら。見ているほうも思わずつられて笑い出してしまい、悪いことも笑って許してしまうという副作用が出てきたりして…？

まあ冗談はこのくらいにして、今年は本当の笑いに満ちた年にしたいものですな。お後がよろしいようで・・・。

T 2

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。（順不同）

田尾幸三様 松平義規様

高木医院様 佐久間良夫様

☆イトウ君の漢字コーナー☆の答え

- Q1. にんじん Q2. ねぎ Q3. ぶどう Q4. トマト
Q5. メロン Q6. バナナ Q7. さつまいも
Q8. キャベツ Q9. パイナップル Q10. らっきよ

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21
障害者定期刊行物協会
頒価 100円